

会員の広場



平均寿命と平均余命そして…

安間 孝信（東京）

経済倶楽部恒例の夏休みが終わり久しぶりに講演会に来ていつも座るやや後ろの席から前を見ると白髪と禿げ頭の何と多い事か（失礼）。こんなに一度に高齢な方が居る場所が久しぶりで有ったからであろう。

こんな時いつも親しくして頂いて居る先輩

会員の方から敬老の日が近いと言う事で厚生労働省が発表した直近の「平成29年度簡易生命表」なるものを頂いた。

これによると平成29年に出生した人の男性の平均寿命は81・09才。また、平均余命は75才の人では12・80才です。

平均寿命は「事前確率」で有り平均余命は「事後確率」と云えます。

これに加えて最近よく言われるのがWHOが提唱した「健康寿命」です。これはいかに自立して健康に生活できるかを言い平均寿命との差は介護が必要な期間を意味します。

この差は男では8才余り、女で12才です。いつまでも自立して生活したいものです。

こんな事を考えているうちに有る事が頭を

よぎりました。それは「平均余命」や「健康

寿命」が残って居ても当たり前ですが突然終了してしまう事も有るのだという事実です。

野球に例えれば元氣に出塁して塁上で意気揚々と次の塁を狙っているその時突然の絶妙な牽制球でタッチアウト。残念。

こんなことは有りますよね。これを「事前確率」「事後確率」「健康寿命」に加えて「牽制球突然タッチアウト率」又「突然アウト率」と表記してみたらどうであろうかと思いました。

当然年齢が進めばその確率は上がります。私の考えでは数値としては%で表記します。

75才で有れば「平均余命は12・18」「突然アウト率は60%」の様にして「突然アウト率」

は年齢とともに上がって来るのです。

こんなことに思いを巡らせながら知り合いから頂いた秋田の銘酒を「今年は夜に成ってもいつまでも暑さが残る」などと言いながら、冷やして飲もうと窓際に四合瓶とガラスのぐい飲みを持って月を見ながら一杯やりました。この酒豊潤、この上なくうまい。

つまみは北海道の新じゃが。よく「じゃがバター」と言いますが、これも北海道出身の親しい人から教えて頂きましたつまみで、ホクホクのジャガイモに塩辛を乗せて「ホカホカじゃが塩辛」。これはいけます。

呑気に飲みまた飲み、最後の一滴迄飲んでしまい「突然アウト率」が上がりそうな事も忘れて至福のひと時でした。おしまい。